

東日本大震災広島中央保健生協支援対策ニュース

NO. 18(2ページ)

2011.4.4 8:30 発 広島中央保健生協対策本部

1. 第3陣の医療支援が出発！

4月3日(日)に福島生協病院南4階病棟の土佐岡さん、院内保育士の長谷川さんが医療支援に出発しました。続いて4日(月)午後に福島生協病院検査科の児玉科長が出発の予定です。第3陣の医療支援は4月9日(土)までです。

第4陣(4月10日～)、第5陣(4月17日～)を募集！医療支援者の寝袋募集中！

- 第4陣については、4月1日時点で1名(訪問看護ステーションコープ五日市・村崎看護師)が希望しています。引き続き募集します。
- 第5陣については、4月1日時点で1名(福島生協病院放射線科・住吉放射線技師)が希望しています。引き続き募集します。

2. 医療支援や現地調査の報告

1) 第1陣の杉本医師(整形外科医)、3月20日～21日の坂総合病院での支援活動

(下記は手記からの抜粋)

- (20日から引き続き21日朝まで黄色ブースでの支援活動)リーダー(医師)は疲れていた。この女性医師は若き美貌であった。髪やお肌こそやつれた感じはなかったが、イスにすわったままゆらゆらと倒れそうになっている。この業務をいったい何日やっているのだろうか、震災後昨日初めてシャワーを浴びることができたのだろうか。いったいどのくらいの医師や看護師が坂総合病院で寝泊まりしているんだろう。働ける避難所??生活と過酷な労働がおんなじ場所!なんということだろう。
- (21日の未明の黄色ブースでの支援活動)さて、今度は小児の喘息発作だ。昨日夜から咳がひどくなっているらしい。親がとても心配そうだ。広島医療生協の井口先生(診療所所長だが、小児科専門)が、なぜか、たまたま通りすぎたので、すがりついた。わし広島から来とるんよ、などと子供に話しかけたりしている、さすが小児科の先生。深夜4時井口先生ありがとう。その後だんだん患者がふえていった。
- 忙しさを増す朝8時半ごろには、わたしは、東京へ向かうバスに乗るため業務を下りなければならなかった。疲労困憊リーダーのためにもがんばりたかったが、やむをえない。そう、次の支援の先生に託していくしかない。
- その後、広島にかえって坂総合病院をネット上で訪れると、3月23日から通常の外来診療を開始するという。先生たちは家に帰れるようになったのだろうか。笑顔で出迎えてくれたあの助産師さんは今も元気で働いてくれているのだろうか。坂総合病院の先生達に避難所医療のことも考えろ、というのはあまりに酷である。次の支援はどういうふうにはいっていきのいいのだろうか。家庭医的能力 専門医としての能力も重要だが、保健衛生、精神衛生、行政との巧みな関係 いずれもとても重要であろう。そう参謀機能も重要になってくる。＜以上終わりです、ニュース担当者が杉本先生の手記から抜粋しました＞

2) 藤原副理事長、原発事故・福島県現地調査の報告(下記は概要報告からの抜粋)

30 日(水)夜の当生協労働組合の要求への回答団交の終わりに、藤原副理事長より 27 日(日)の福島県現地調査の一部を報告、紹介させていただきました。

○ 福島原発事故現地調査(概要)

今回の地震の特徴＝①広域であること②甚大であること③原発による被曝問題があること
今回の現地調査で明らかになったこと

* 地域によって上記の3つの特徴がそれぞれ大きく異なること

津波による影響が大きい地域、原発問題を中心にした地域

今の原発が直接的に引き起こしていること

①不安・動揺②ストレス③避難・退避、その結果もたらされたもの

→地域から人がいなくなる、物資が届かなくなる、改修が進まない

医療・介護ができない

結果的に

① 医療機関・医療機能がなくなってしまった。

② 介護もなくなった。

③ 行政機能そのものが機能不全に陥った。⇒町が消えた。

④ コミュニティが崩壊した。

⇒役場が移動する。町民が移動する。「避難民」が移動する。

* 生存権・生活権そのものが奪われている。

どうとらえるか

直接被曝・急性期被曝問題：問題なし

内部被曝・晩発性被曝問題：リスクはある。

○ 職員教育委員会(委員長・徐医師)主催でお昼休みに藤原先生や医療支援者の報告を聴く会を計画中です。日時・場所が決まったらご案内します。

3. 義援金と心を届けよう！新入職員と共に！

1) 教育委員会に震災支援に関する川柳が届きました。紹介します。

☆ 被災地の 仲間とともに 虹かける

☆ どんなに暑くても 寒くても 私は医療生協人

☆ 医療生協に 希望を託す 被爆者の声 (以上3句、包括支援センター 職場)



【4月1日、当生協入職式での記念撮影】

2) 4月1日(金)新入職員27人が入職式、オリエンテーションで盛谷専務が第一陣医療支援の報告。

3) 2週間でカンパ累計で 260 万円を超えました！

4) 引き続き支部や事業所で寄せられた義援金と一緒に被災地へのメッセージも届ける取り組みを行います。

○ 各職場は取りまとめて事業所管理部の震災担当者へ、各事業所は毎週火曜日に総務へ集めたカンパを持参下さい。

以上